

半田小学校で河川環境学習を開催しました。

半田小学校4年生の児童を対象に、「川の水をきれいにするための取り組み」について学習した後、身近な川の水や生活排水の水質検査、透視度検査を体験し、水をきれいにする事の大切さを学びました。

【実施概要】

日 時：平成26年7月1日（火）9：30～11：00

場 所：半田川

参加者：半田小学校 4年生 23名

徳島県 河川振興課 2名

徳島県 西部総合県民局（美馬庁舎） 2名

内 容：1 川の水をきれいにするための取り組み

2 水の汚れの原因（水質実験：透視度、COD パックテスト）

3 底生生物調査

【活動状況】

○「川の水をきれいにするための取り組み」

川の役割や川と人の関わりなど、川に関する基本的なことを学びました。また、川をきれいにするための取り組みやその大切さを学びました。



○「水の汚れの原因」水質実験（COD パックテスト、透視度測定）

身近な河川の半田川と水道水の透視度を測定しました。測定結果は、測定できる範囲の中では、半田川と水道水は同じ値（最高値）となり、半田川の水は透視度が高いことがわかりました。次にCOD（化学的酸素要求量）をパックテストにより測定しました。半田川と水道水のCODを測定した結果、水道水に比べ、半田川のほうがCODが高いことがわかりました。また、川の汚れの原因となる生活排水として、身近にある食品（牛乳、ジュース、しょうゆ、スープ、米のとぎ汁、日本酒、焼き肉のたれの全7種類）のCODを測定しました。測定した結果、300mlの水に1滴程度混ぜたものでも5～30mg/lと高い値を示す結果になりました。このことから、残した食べ物を安易に流しや川に捨てることに



よって川がどれほど汚れてしまうかを知り、水質浄化のために自分達ができることを学びました。

○底生生物調査

はじめに、川に入る際の注意事項や底生生物の捕り方などを説明しました。その後、川に入り、みんな思い思いの場所で、いろいろな道具を使って底生生物や魚を捕獲しました。捕獲した底生生物や魚の名前を調べ、生物の種類から半田川の水質を判定しました。トビケラ、カゲロウ、カワニナなどの底生生物が生息していることが分かり、半田川の水はきれいな水であるということがわかりました。

